

【第3編 資産運用 12-3】ETFとETNの違い

(1)そもそもETNとは何か？

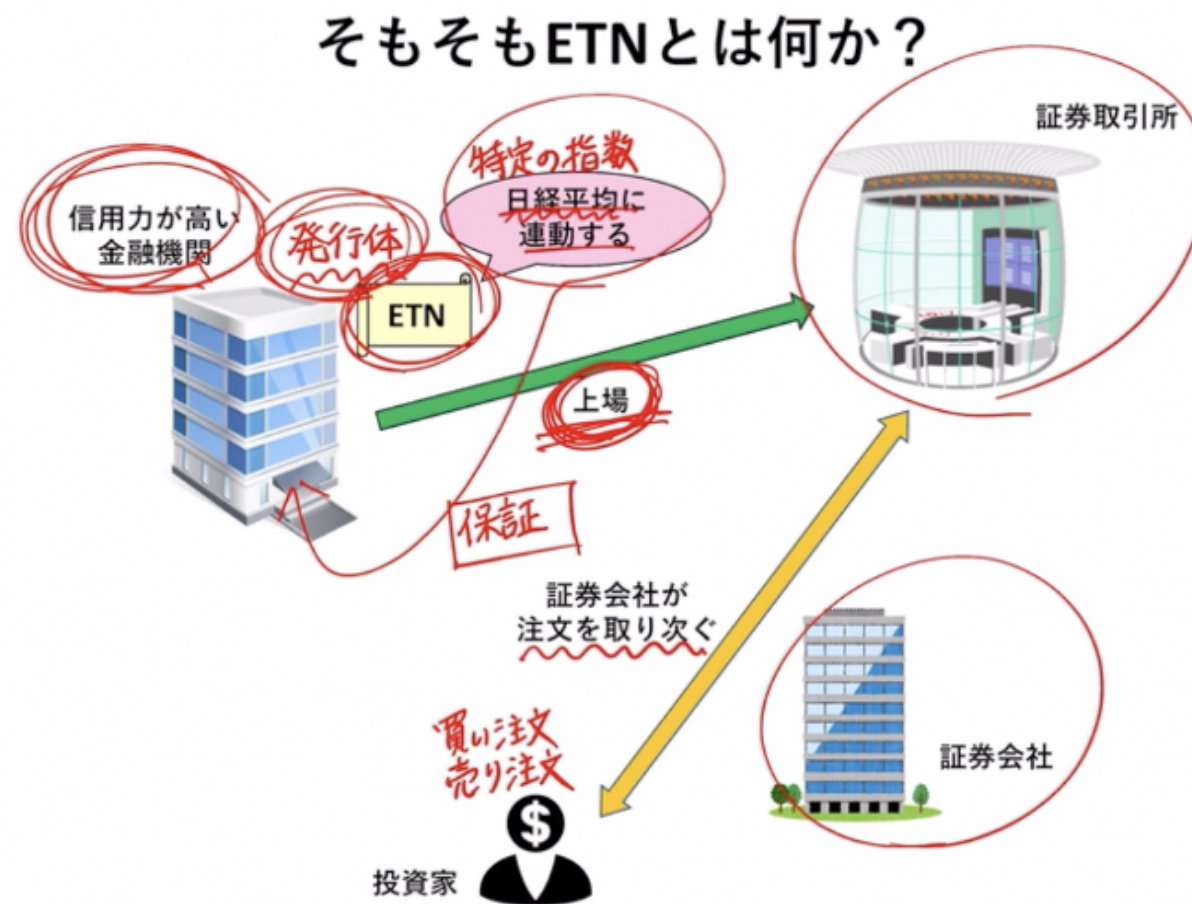
ETN (Exchange Traded Note : 上場投資証券)

→証券取引所に上場し、特定の指数に連動する金融商品

→「Note」＝「債券」

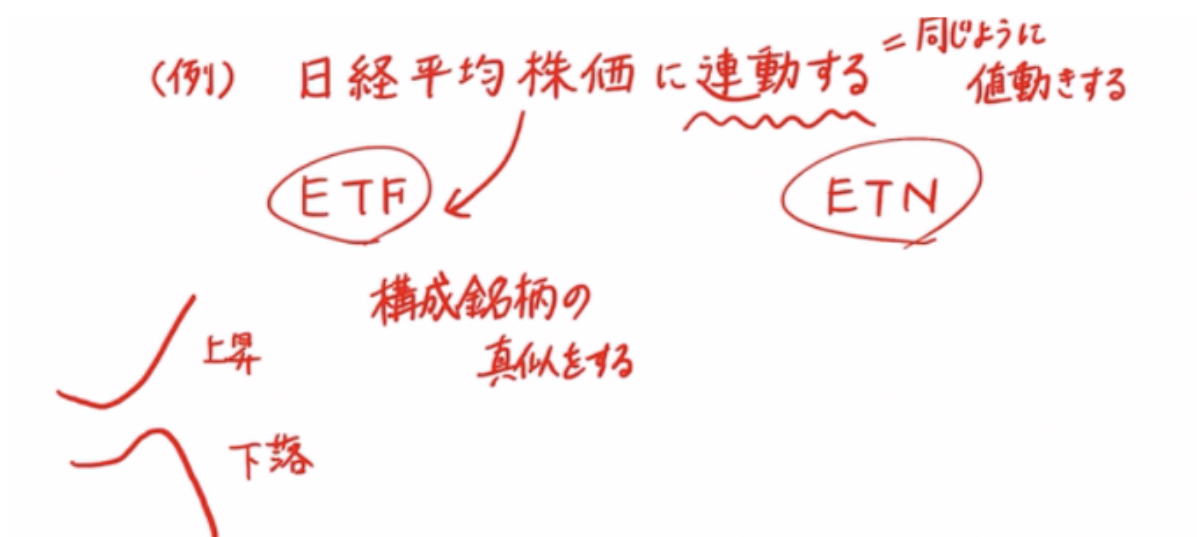
特定の指数：TOPIX、日経225

→金融機関が発行する「債券」をリターンの源泉とする



(2)ETN には裏付け資産がない！

①裏付け資産を持たない



BlackRock iシェアーズ・コア 日経225 ETF (1329) の組入上位10銘柄

組入上位10銘柄					
全ての銘柄を見る					
日付 2019年1月15日					
選択					
ティッカー	銘柄名	業種	アセットクラス	評価金額	保有比率 (%)
9983	ファースティンダ	小売業	株式	¥57,969,710,000	9.56
9984	ソフトバンクグループ	情報・通信業	株式	¥25,139,049,000	4.15
6954	ファナック	電気機器	株式	¥19,566,000,000	3.23
9433	KDDI	情報・通信業	株式	¥17,648,532,000	2.91
8035	東京エレクトロン	電気機器	株式	¥15,174,520,000	2.50
8028	エニックスHD	小売業	株式	¥14,033,170,000	2.31
6367	ダイキン工業	機械	株式	¥13,473,365,000	2.22
4543	テコモ	精密機器	株式	¥13,270,096,000	2.19
6971	京セラ	電気機器	株式	¥12,774,424,000	2.11
9735	セコム	サービス業	株式	¥9,910,179,000	1.63

ブラックロック・ジャパンWebサイトの同銘柄目録見書より

- ・ETN→金融機関が値動きを保証しているだけで、現物株式を保つ必要がない
- そのため現物資産が困難な対象指標でも投資信託が可能！
- (例)外国人保有が制限される外国株、コモディティ

②トラッキング・エラーが生じない！

※トラッキング・エラー＝基準価額と対象指数の乖離

③発行体の信用リスクを負うことになる



→こうした信用リスクを軽減するために、

東証では厳格な上場審査・廃止基準を設けている

・純資産額:5,000 億円以上

・自己資本比率:8%超→財務の健全性

cf.証券会社:自己資本比率規制の200%超

保険会社:ソルベンシー・マージン比率400%超

・信用格付:A マイナス以上

④取引量が少ないことから流動性リスクに注意！

→取引量、希望価格数量

→2018年7月 マーケットメーカー制度

＝注文を出すサポーターメンバー

→あらかじめ買っておく

ダイワ上場投信・TOPIX-17 エネルギー資源（1635）の板情報

制度導入前の板情報

■ 2018年5月31日 14時頃

売注文	値段	買注文
1	17,750	
205	16,030	
103	16,020	
	15,880	
	15,810	138
	15,800	164
	15,790	103

制度導入後の板情報

■ 2018年7月2日 14時頃

売注文	値段	買注文
1,703	16,500	
1,765	16,490	
187	16,480	
	16,430	2,400
	16,420	1,500
	16,410	1,500
	16,400	287

東証マネ部！の資料を基に作成

(3)ETF と ETN の特徴をまとめてみると...

	ETF	ETN
リターン	特定の指数に連動する	
裏付け資産	あり	なし
発行体の信用リスク	原則なし	あり
トラッキングエラー	生じる可能性がある	なし
分配金	あり／なし	なし
税制上の扱い	株式と同じ	
NISAの対象となるか	対象となる	

※ただしETFの種類によっては、発行体の裏付け資産がないものや信用リスクが想定されるものがあります。

